

クレーアート &
クレーレの紹介



CREATE ART



クレアーレとは

「クレアーレ」はラテン語で「Creare（創造）」を意味し、日本交通文化協会が推進する環境芸術推進活動を「クレアーレ」と呼んでいます。「クレアーレ」の活動内容は多岐にわたります。駅や空港をはじめとしたパブリックスペースにステンドグラスや陶板レリーフ、彫刻などを設置する活動は50年となり、また文化芸術の発展に大きく寄与する「1%フォー・アート」の法制化に向け、政府に提言を行い、有識者の賛同を集める活動を展開しています。また若手芸術家を育てる奨学金制度「国際瀧富士美術賞」は40年、日本の将来を担うリーダーを育てる育英制度「瀧富士基金」は50年を超えます。気軽に芸術に触れられる機会として毎年、駅のパブリックスペースを使った展覧会を行っています。文化と芸術を軸に国際交流にも積極的に取り組んでおり、潤いと安らぎのある社会造りに貢献しています。



02

クレーターアートとは

クレーターアートは、公益財団法人 日本交通文化協会と株式会社エヌケービーが推進する環境芸術活動「クレーター」が創造するアート、およびクレーター熱海ゆがわら工房が製作するアートです。駅や空港、学校、病院、行政施設、劇場など、日本全国のパブリックスペースに 500 点をも超えるアートを設置。その多くは 1000 年素材とも呼ばれる陶板レリーフやステンドグラスを用いています。

作品の多くは、ルードヴィッヒ・シャフラットや平山郁夫、高橋陽一といった世界を代表するアーティストや漫画家の原画をもとに製作されていますが、出来上がった作品は、設置場所や素材の特性を踏まえた上で、原画を見つめ直し、新しい解釈と価値を加えた、言うなれば原画とはまったく異なる、別種のアートとなっています。

クレーター熱海ゆがわら工房では、この出来上がりまでの工程を“翻訳”と呼んでいます。そこには、原画家、職人による翻訳や表現、最高の素材が織りなす唯一無二の美しさ、それこそが「クレーターアート」の魅力です。

CREATIVITY



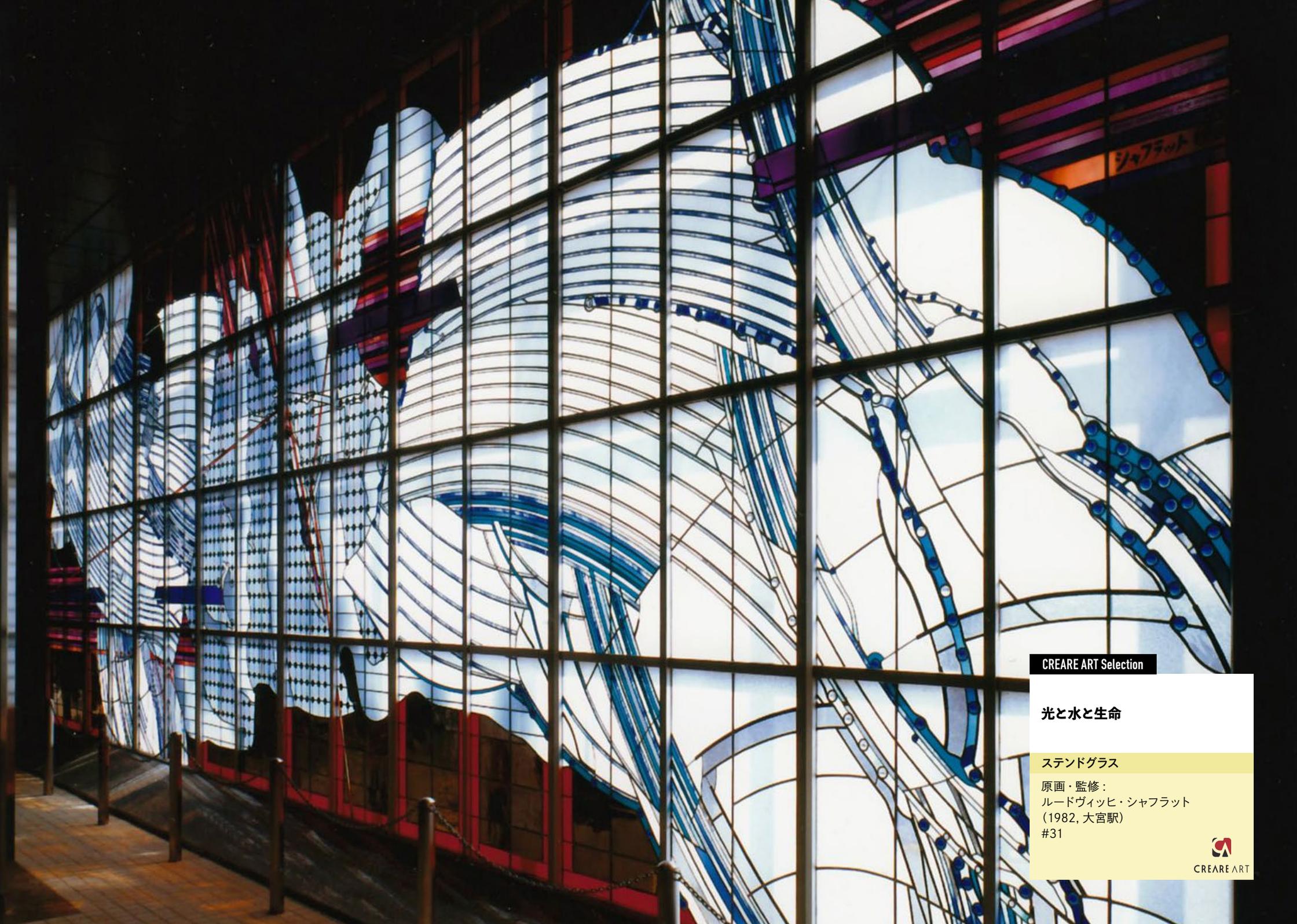
クレアーレアート と クレアーレのあゆみ

- 1948 ▶ 財団法人日本交通文化協会設立
- 1954 ▶ 第一回「交通人総合文化展」を開催
(同展は「交通総合文化展」に改称され、現在まで引き継がれている)
- 1968 ▶ 鉄道従事員の子弟を対象とする育英事業を開始
(同事業は「瀧富士基金」として現在に引き継がれている)
- 1972 ▶ クレアーレアート第1作品目を掲出
- 1980 ▶ 美大生を対象とする「瀧富士美術賞」を創設
(同賞は「国際瀧富士美術賞」に改称され、現在に引き継がれている)
- 1980 ▶ クレアーレ信楽工房を開設
- 1981 ▶ クレアーレ湯河原工房を開設
- 1988 ▶ クレアーレアートが第100号作品を設置
- 2000 ▶ 「パブリックアートの振興に関する提言」を日本政府に提出
- 2001 ▶ クレアーレ湯河原工房の設備を充実化、クレアーレ熱海ゆがわら工房と改称
- 2007 ▶ 「くれあーれにゆーす」を創刊(2020年までに計14号を発行)
- 2007 ▶ クレアーレ熱海ゆがわら工房を増築、設計監修は隈研吾氏
- 2010 ▶ 公益財団法人として認定され、名称が「公益財団法人日本交通文化協会」となる
- 2012 ▶ クレアーレアートとしての初のデジタルアートを掲出
- 2014 ▶ クレアーレアートが第500作品を設置
- 2017 ▶ 日本交通文化協会創立70周年を迎え、「文化創造1947→2016」を発行
- 2020 ▶ 「国際瀧富士美術賞」40周年記念誌を発行
- 2020 ▶ 滝久雄理事長が文化功労者顕彰

04

クレーンアート

CREAMART



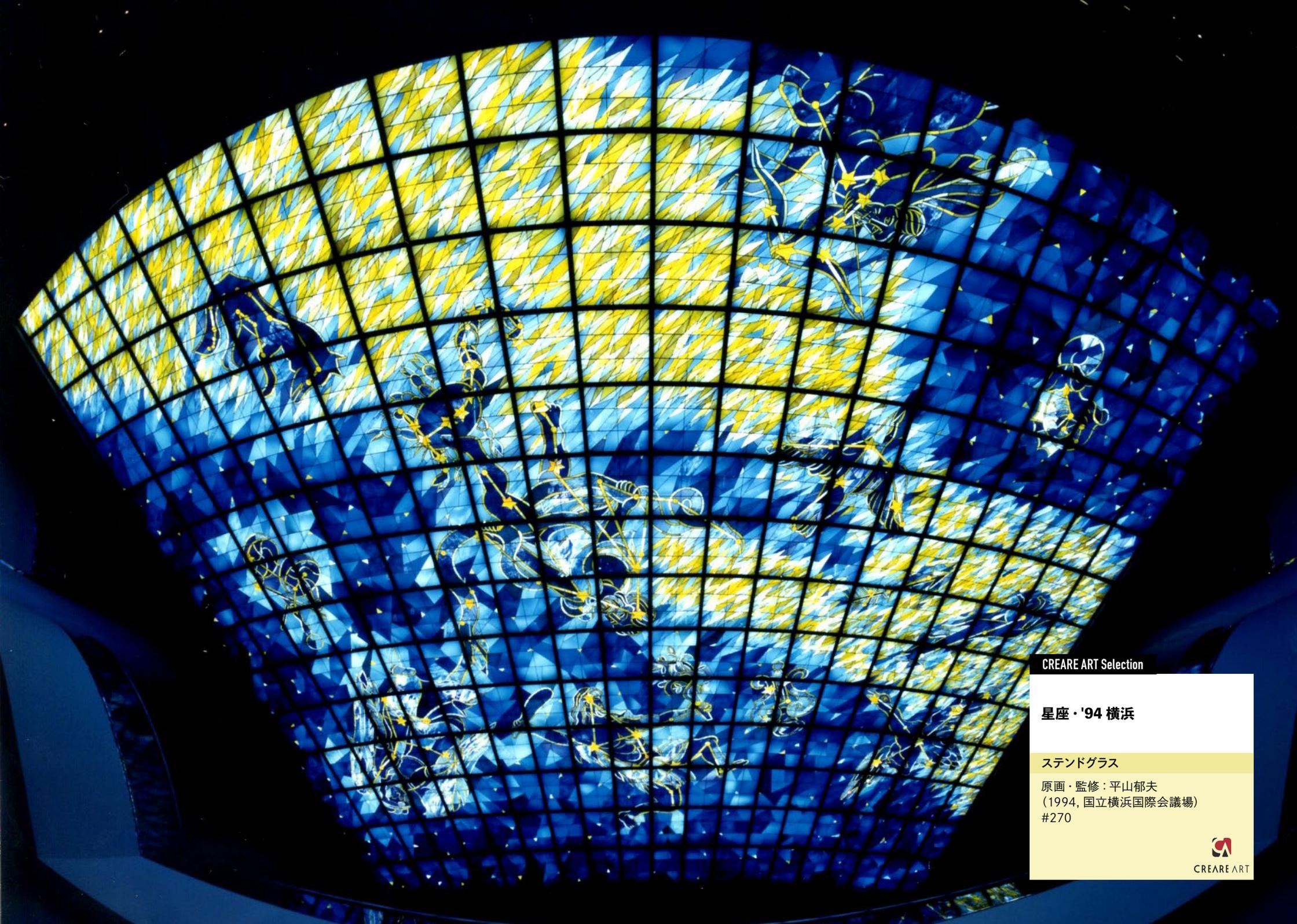
CREARE ART Selection

光と水と生命

ステンドグラス

原画・監修：
ルードヴィッヒ・シャフラット
(1982, 大宮駅)
#31



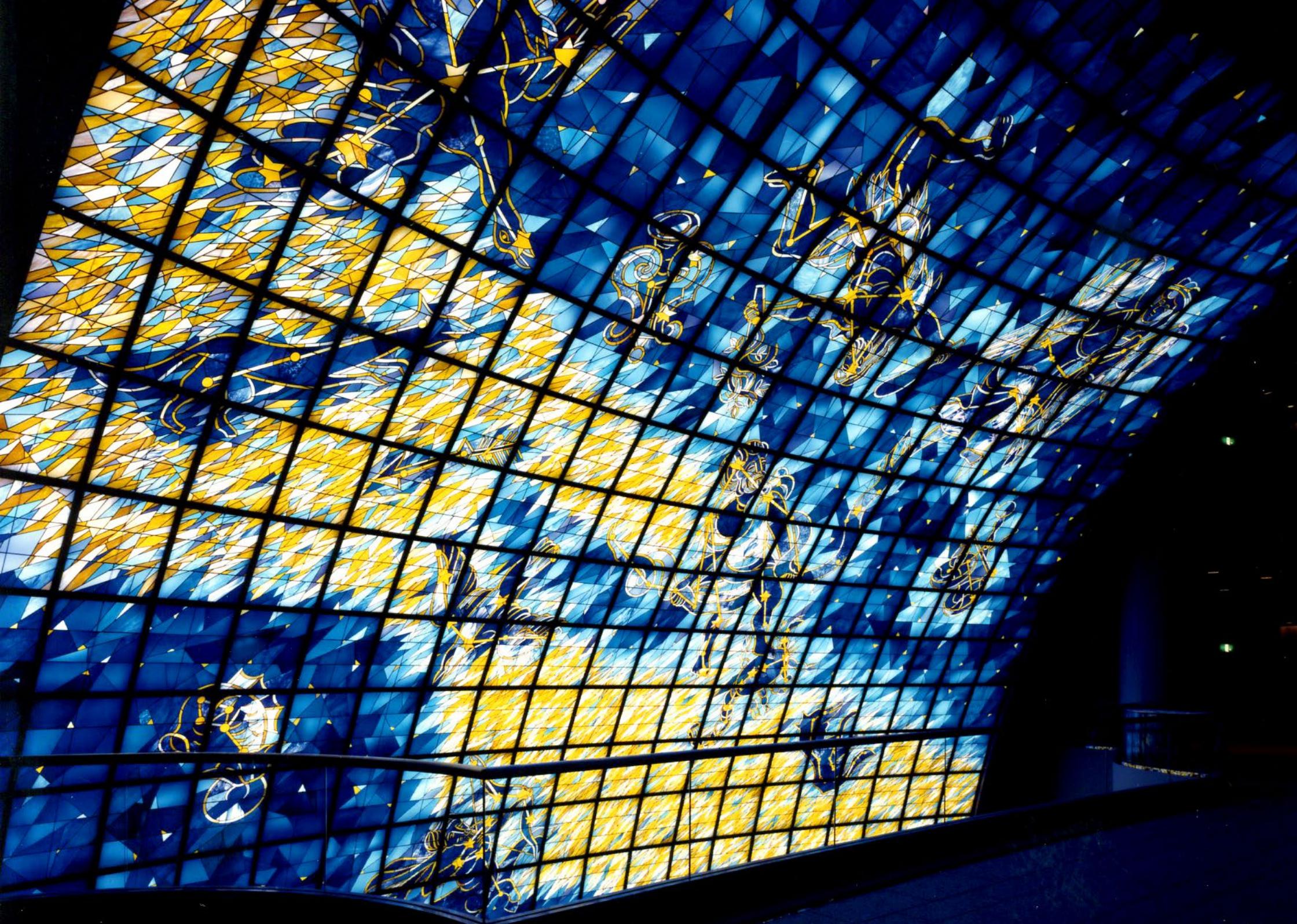


CREARE ART Selection

星座・'94 横浜

ステンドグラス

原画・監修：平山郁夫
(1994, 国立横浜国際会議場)
#270





CREARE ART Selection

美しい水の流れ、
吹き渡る風に夢をのせて
AKISHIMA

ステンドグラス

原画・監修：ルイ・フランセン
(2007, 拜島駅)
#438





CREARE ART Selection

美しい水の流れ、
吹き渡る風に夢をのせて
FUSSA

ステンドグラス

原画・監修：ルイ・フランセン
(2007, 拜島駅)
#439





CREATE ART Selection

いつかは会える

ステンドグラス

原画・監修：野見山暁治
(2008, 明治神宮前駅)
#447





CREATE ART Selection

キャプテン翼～世界に翔け～

ステンドグラス

原画・監修：高橋陽一
© 高橋陽一 / 集英社
(2018, 浦和美園駅)
#526



空化
空化
空化



CREATE ART Selection

**Osamu Tezuka,
Characters on Parade ~
手塚治虫キャラクターズ大行進**

陶板レリーフ

原画：手塚治虫
監修：株式会社手塚プロダクション
(2019, 国際展示場駅)
#531





CREARE ART Selection

アイヌモシリ～神々の住む大地～

ステンドグラス

ステンドグラスデザイン：中野竜志
アイヌ文様監修：藤岡千代美
(2019, 新千歳空港)

#541





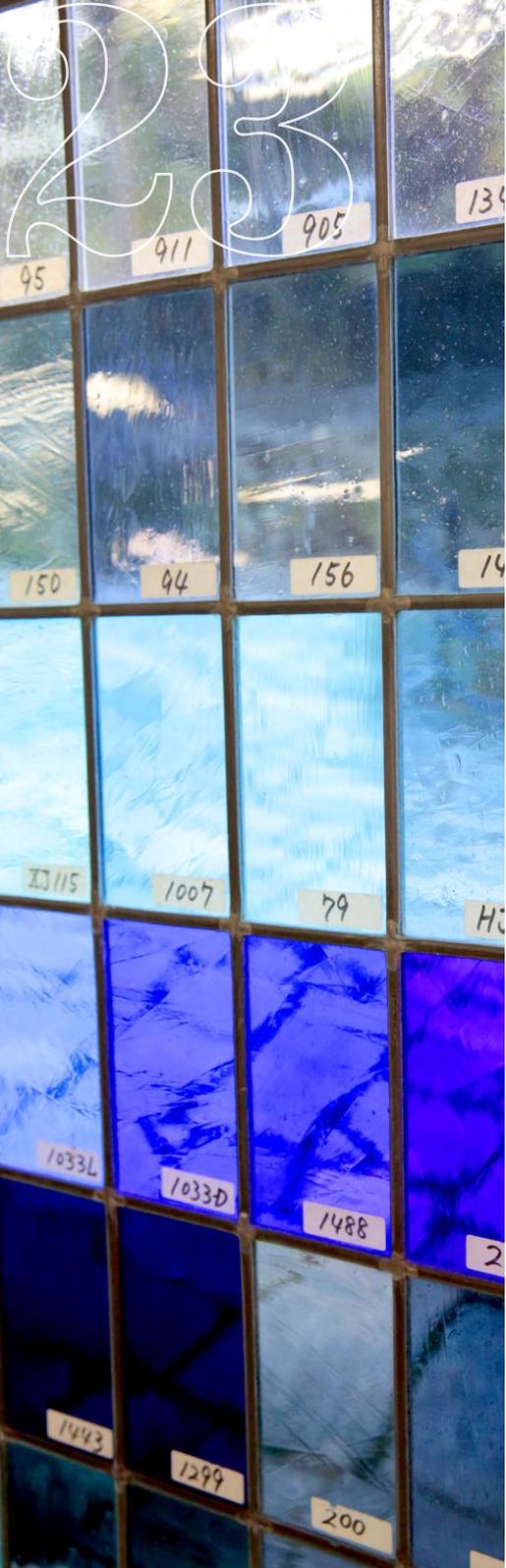
CREATE ART Selection

ELEMENTS OF FUTURE

陶板レリーフ

原画・監修：大友克洋
(2020, 東京工業大学 大岡山キャンパス
Hisao & Hiroko Taki Plaza)
#546





制作手法 ステンドグラスの 世界

豊かな表情、美しい映り込みと アンティークグラスが創り出す 光と色の世界



ステンドグラス制作で最も重要な「ガラス選び」は、デザイン、原画に適したガラスを選び出す作業です。単に色をガラスに置き換えるだけではなく、そのステンドグラスが設置される空間や光源を考慮し、最適なガラスを選びださなければなりません。ガラスには色合いは同じでも、テクスチャーの違うもの、透明なもの、不透明なものと同様な種類があり、光源により見え方がずいぶん変わります。

つまり、設置される場所が、落ち着いた自然光が入ってくる窓なのか、あるいは陽光がふりそそぐ天窗なのか、それともLEDなどの人工照明が光源なのかにより、原画のイメージを表現できるガラスはそれぞれ違ってくる、ということになります。

ガラス選びは原画を読み取り 翻訳すること



作家の描いた原画をステンドグラスに変換していく場合も、設置される場所の特性を十分に把握することは不可欠です。また原画を深く「読み取る」ことはもちろんですが、その作家との会話などで得られるイメージが少なからず影響することもあります。ステンドグラス制作におけるガラス選びとは、このような様々な情報を整理、統合し、最適なガラスを選び出すことであり、素材や設置環境に対する深い理解と専門的な知識が必要とされます。

中世ヨーロッパの手吹きガラス 「アンティークグラス」



クレーアのステンドグラスに用いられるガラスはドイツ・ランパーツ社製のアンティークグラス。中世ヨーロッパから変わらず受け継がれる手吹きガラス「アンティークグラス」の最高峰で、高い透明度と手作りならではの味わいが創り出す、床や窓への映り込みの美しさは他には代えがたい美しさを誇ります。



制作手法 陶板レリーフの 世界

陶板レリーフのダイナミックな 造形に必要な土づくり



陶板レリーフの造形には、一般の陶器とは異なる特殊な粘土が必要不可欠。陶板レリーフの制作は土づくりから始まります。1980年、クラーレが最初に工房を構えた滋賀県信楽は陶芸の町。この土はあかね色の地肌白い小さな長珪石質の粒子を含む、日本屈指の焼き物に適したものとされています。クラーレではこの土をベースに独自のブレンドを行い、軟らかさと粘りを持ちつつも切れの少ない、大胆さと繊細さを兼ね添えた表現を可能とする陶土を作り上げたのです。

伝統的釉薬の美しさの研究と 新たな釉薬（ゆうやく）の開発



釉薬に彩られた日本の焼き物は世界に類を見ない独自の色を持つと言えます。クラーレ工房が創設された当初、陶板レリーフの着色には伝統的な釉薬が用いられていました。当時の所長、ルイ・フランセンは日本の焼き物、すなわち伝統釉による発色には、いわゆる“綺麗”な色にはない「味」があり、その「触れてみたい」と思わせる色と質感を壁画の中に表現したいと考えたのです。現在、工房ではこの方針を受け継ぎつつも、作家のイメージの幅を広げ、新たな表現を可能にするべく、独自の研究による新たな釉薬の開発が行われており、今やその数は6,000色にも達しました。釉薬の幅が広がることで、作品の豊かさと深みが増していくのです。

対話と翻訳が生み出す 総合アート



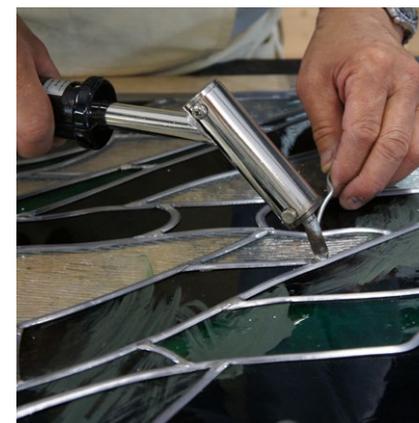
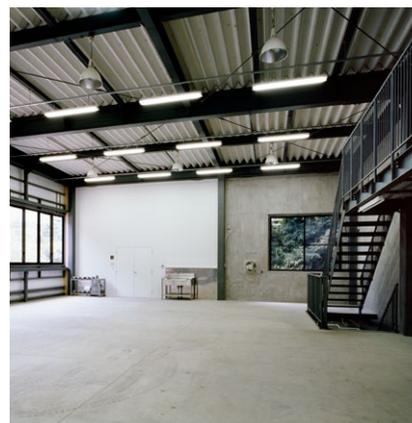
陶板レリーフは製作工程のなかで、土、造形、釉薬、焼成技術が絡み合い、深い味わいが生まれます。その過程で作家との会話を重ね、作品に込める思いを吸収し、どのような造形や釉薬を施すのか、造形と釉薬の双方を活かし合えるよう対話を重ねに重ね、制作を進めていくのです。このようにいわば原画を翻訳する、そのような緻密な協働により、クラーレアートの陶板レリーフは完成するのです。

クレアーレ熱海ゆがわら工房

クレアーレ熱海ゆがわら工房は、株式会社 NKB が運営する工房です。ここでは多くの著名アーティストとのコラボレーションによるパブリックアート、「クレアーレアート」の制作が行われています。日本有数の温泉地である箱根の麓の広大な敷地（約 13,000m²、4,000 坪）に釉薬研究施設、焼成サンプル室、スタンドグラススタジオ、ショールームなどを備えた工房で、設計デザインは建築家・隈研吾氏です。

工房ではドイツのランベルツ社によるアンティークグラスなど、最高の素材を用いて、職人・アーティスト・工房設備が一体となり、人々にゆとりと活力をもたらすパブリックアートの制作を行っています。6,000 色にもおよぶ釉薬を管理し、陶板レリーフ、スタンドグラスをはじめとしたパブリックアートの研究、制作にあたっています。

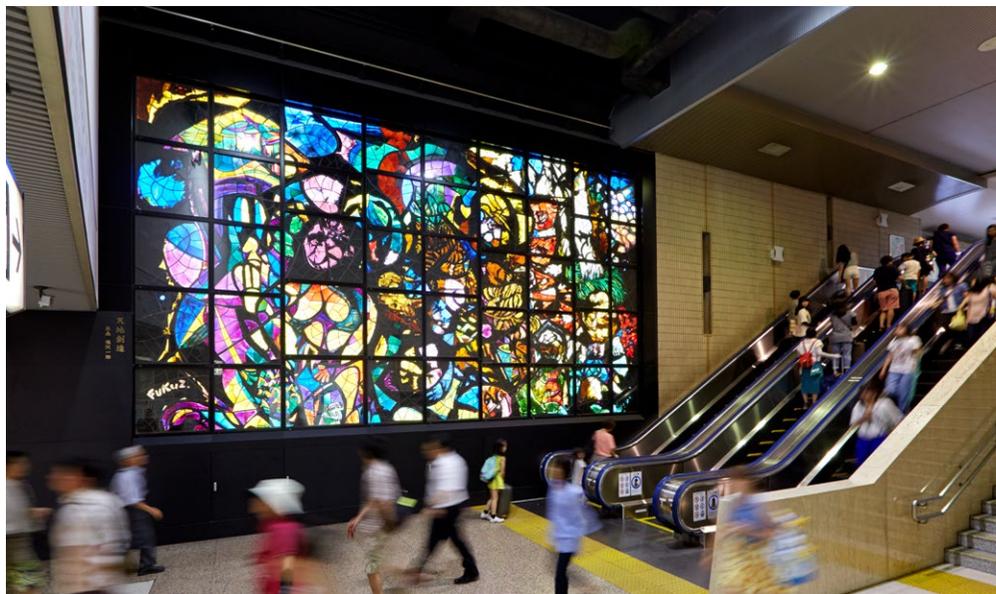
新しいスタンドグラス制作のために大型キルン（電気炉）を導入して、最大 200 × 100cm の 1 枚ガラスにエナメリング（絵付けを施し焼付）やフュージング（ガラス同士の融着）が可能で、より幅広いアート表現を実現しています。このように第一級の工房にふさわしい環境と設備のもとで「クレアーレ熱海ゆがわら工房」は、これからも多くの芸術家の方々を迎え、より開かれた制作活動を展開していきます。



クレーマー

パブリックアートの普及・振興事業

日本交通文化協会では駅や空港をはじめ、学校、病院、劇場などのパブリックスペースに、ステンドグラスや陶板レリーフ、彫刻などを設置する運動を進めています。見る人に喜びと潤いを与えるとともに、人々の生活の中に当たり前のようにアートが存在する社会を作りたいとの思いからです。これまでに制作・設置した作品は日本全国で500点を超え、2021年7月の時点で549点となりました。



JR 東京駅「天地創造」
福沢一郎 第1号作品



福島空港「ユートピア」堀文子
第500号作品

詳しくはこちら

<http://jptca.org/publicart/>

「1%フォー・アート」の法制化に向けた活動

「1%フォー・アート」とは公共建築（建物、橋梁、構造物、公園等）の費用の1%を、その建築に関連・付随する芸術・アートのために支出しようという考えです。欧米ではすでに法制化され、文化芸術の発展に大きく貢献しています。日本でもこれを導入すべきだと当協会では考えており、政府に提言を行い、有識者の賛同を集め、シンポジウムなどを通じて積極的なPR活動を行っています。



米国や台湾の「1%フォー・アート」制度の支援を受けて、現地で作品を制作した彫刻家の五十嵐威陽氏のインタビュー

<https://jptca.org/interview/20151014-15917/>



パブリックアートの振興に関する提言を提出

詳しくはこちら

<https://jptca.org/one-percent-for-art/>

「1%フォー・アート」の法制化への賛同者



五十嵐 威暢

彫刻家
多摩美術大学 元学長



隈 研吾

国立大学法人東京大学
特別教授



野依 良治

国立研究開発法人科学技術振興機構
研究開発戦略センター長



松浦 晃一郎

国際連合教育科学文化機関
(ユネスコ) 第8代事務局長



室伏 きみ子

国立大学法人お茶の水女子大学
名誉教授

1%フォー・アートの法制化への賛同者：66名（2021年3月末現在）

詳しくはこちら

<https://jptca.org/one-percent-for-art/>

30 育英事業

①国際瀧富士美術賞

環境芸術の振興とそのためのアーティスト育成を目的に、1980年に設立されました。日本とフランスをはじめとした外国の主要美大の最終学年の学生が対象で、応募作品の中から選ばれた優秀賞に奨学金30万円が給付されます。また優秀賞の中から国内、海外の学生各1人にグランプリが与えられます。毎年20数名が優秀賞を受賞し、東京で開催される授賞式に招待されます。外国人の場合は3泊4日で、交通費、滞在費とも協会負担での招待です。現在、国内13校、海外7カ国13校の美術・芸術系大学が対象で、外国はアジア、米国、欧州にわたります。過去41年間で国内外あわせて延べ800人に対し、総額2億円以上の奨学金を給付しています。

②瀧富士基金

日本の将来を担うリーダーを育てるため、1968年に創設された育英制度です。対象は交通事業（観光を含む）や、それに関係する事業に従事する方のご子弟で、大学、短大に在学する学生です。毎年審査で20人から50人が選ばれ、2021年3月までに延べ1923人を超え、給貸与総額は21.8億円になります。

詳しくはこちら

<https://jptca.org/scholarship/>



国際瀧富士美術賞授賞式（2019年）



瀧富士基金奨学生募集ポスター

31 展覧会事業

日本交通文化協会では1954年から駅の公共スペースを使って「交通総合文化展」を開催しています。展示の中心は鉄道や観光地、日本の風物を紹介する「写真」と「俳句」で、公募の中から選ばれた優秀作品を展示します。このほか日本を代表する芸術家の作品展「溯瀧会」、当協会が進めているパブリックアートの普及活動の紹介や、招待作家によるパブリックアート作品展を合わせて展示しています。毎年、10月14日の「鉄道の日」に合わせて開かれます。現在はJR上野駅の中央改札を出たところで実施、駅の文化イベントとして定着し、多くの人にご来場いただいています。



交通総合文化展 2020



優秀写真作品展示



優秀俳句作品展示

詳しくはこちら

<https://jptca.org/exhibition/>

展覧会事業



日本を代表する芸術家の作品



パブリックアート普及特別展示



招待作家 大小島真木氏によるパブリックアート作品展 (2020)



招待作家 金丸美華子氏によるパブリックアート作品展 (2019)

国際交流推進事業

日本交通文化協会は文化・芸術の諸活動を通じて国際交流に力を入れています。国際瀧富士美術賞では、受賞した内外の学生と指導教員を、協会と協力関係にあるパブリックアート製作工房「クレーレ熱海ゆがわら工房」（静岡県熱海市）に招待し、製作現場の見学やワークショップを実施し、交流を図っています。

また日本の陶板製作技術を学びたいという外国人の若手アーティストを、「クレーレ熱海ゆがわら工房」に紹介しています。パリ国立高等美術学校の学生で、東京藝術大学に短期留学していたウクライナ人のマリア・シルチェンコさんも、東京藝大の留学を終えた2019年2月から5月までの約3カ月間、工房で陶板製作技術を学びました。帰国前には工房の仲間3人と熱海市内で合同展を開き、シルチェンコさんは大小10点を展示しました。彼女を通じて工房を知ったパリ国立高等美術学校の元学生からも研修の打診がきており、コロナ感染が一段落したら受け入れる予定です。当協会はこれからも文化を通じた国際交流に取り組んでいきます。

詳しくはこちら

<https://jptca.org/international/>



工房見学の様子（2019年）



留学生への学びの機会の提供



合同展での作品展示



機関誌くれあーれにゅーす

環境芸術活動推進のあかしとして、冊子「くれあーれにゅーす」（日本語のみ）を発行しています。



創刊号 2007年7月



第14号 2020年10月

詳しくはこちら

<https://jptca.org/publicart/creare-news/>



 @createart1  @create_art_gl  @create_art_gl
 CREATE ART / クレアーレアート (公式)



クレアーレに関するお問い合わせ

公益財団法人

日本交通文化協会

JAPAN TRAFFIC CULTURE ASSOCIATION

Mail info@jptca.org

公益財団法人 日本交通文化協会
〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-1-3
東京宝塚ビル
TEL : 03-3504-2221 FAX : 03-3504-2224

公式ホームページ <https://jptca.org/>

アートおよびグッズ制作のお問い合わせ

INTERACTIVE COMMUNICATION
NKB INC.

株式会社 NKB
〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-1-3
東京宝塚ビル
TEL : 03-3504-2100 (代)

Mail create.art@nkb.co.jp

公式ホームページ <http://www.nkb.co.jp/>